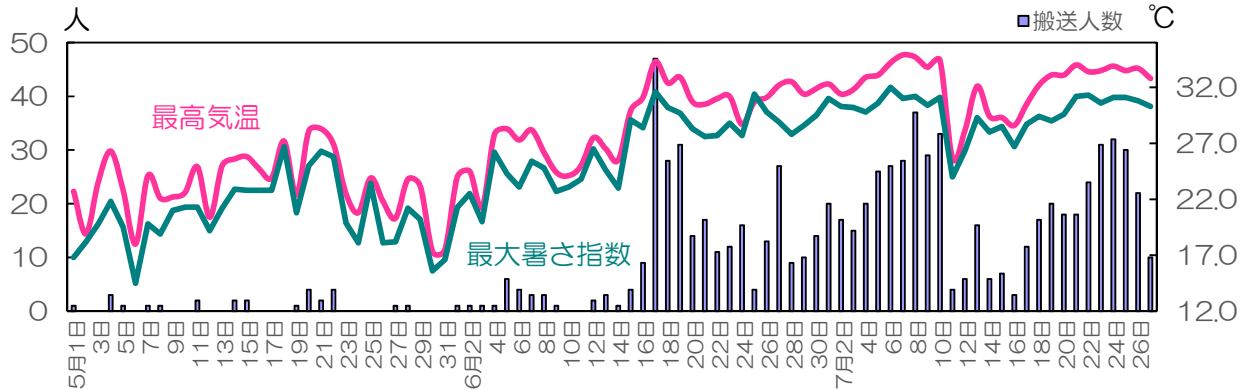


熱中症情報

<搬送数>

令和7年5月1日～7月27日までの搬送数（消防局データを使用）は、計847人（5月26人・6月293人・7月528人）でした。6月17日は、搬送数が47人/日と、期間内で最多を記録しました。7月11・12日は、夏日で搬送数が減少しましたが、7月18日に梅雨が明けた後は、連日真夏日が続き、搬送数は増加傾向です。



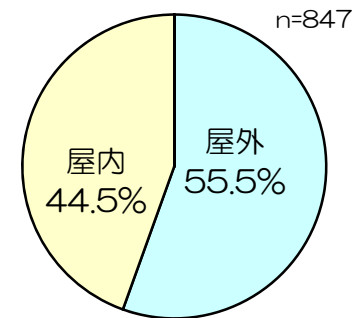
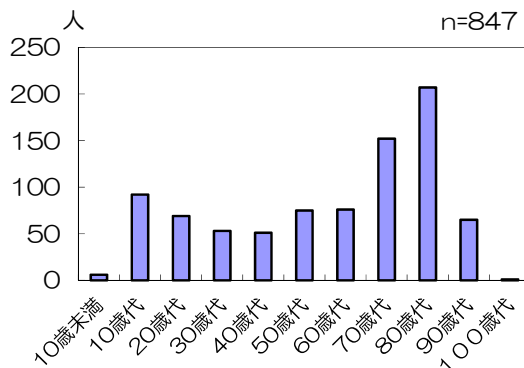
熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。

気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。

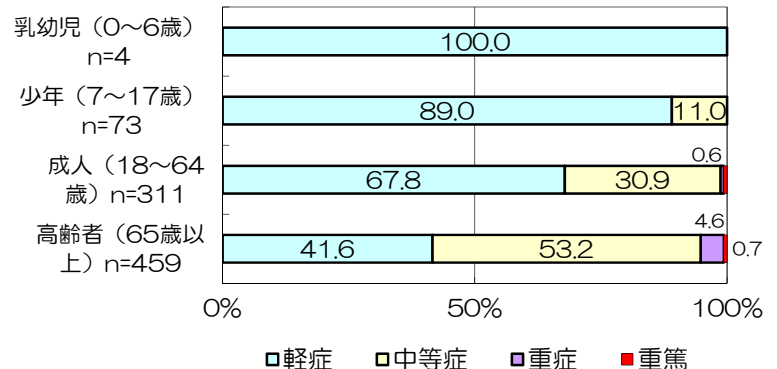
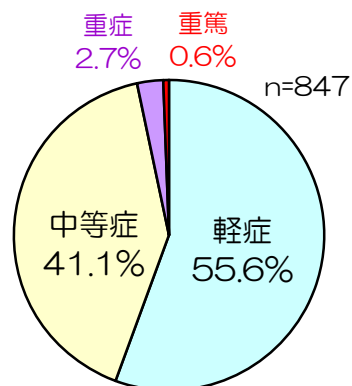
身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、熱中症の予防に努めましょう。

暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

<年齢別> 80歳代が207人（24.4%）で最も多く、**<発生場所>** 屋外55.5%、屋内44.5%で、次が70歳代で152人（17.9%）でした。屋外での発生が多くなっています。



<重症度*> 軽症55.6%、中等症41.1%、重症2.7%、重篤0.6%でした。高齢者で中等症以上の割合が58.4%と高い傾向が見られました。



*重症度の定義（横浜市熱中症情報）

※小数点以下第2位を四捨五入するため、計と内訳の合計が一致しない場合や構成比の内訳の合計が100%にならない場合があります。